



火傷（やけど）の応急処置

冬は暖房器具の使用などもあり、やけどの多い季節です。
小さなお子さまのいるご家庭では、特に注意しましょう。
やけどは発生直後の応急処置で症状の悪化をより少なくすることができます。

❄️ すぐに冷やします

できるだけ早く、やけどをしたところを流水（水道水など）で15～30分冷やします。
冷やすことで、熱が奪われ、やけどが広がるのを抑えることができます。

❄️ 服の上から水をかけます

服を着ている部分のやけどは服を着たまま冷やします（脱いでいる間も火傷が進行してしまうため）。水で冷やしながらか注意深く脱ぎ（脱がし）ましょう。服が皮膚にくっついてしまっている場合は、無理に脱ぐと皮膚も一緒に剥がれてしまうこともありますので、そのままにします。

❄️ 氷や保冷剤を使うのも有効です

氷水に浸したタオルや、氷を入れたビニール袋、アイスノン（濡れたタオルの上からあてて使う）を使って冷やす。

❄️ すみやかに病院へ

患部を冷やしながらかすみやかに病院に向かいましょう。

- ◎ 小さな範囲のやけどで、冷やすことによって痛みがとれて水ぶくれもない場合（皮膚が軽く赤くなる程度）なら、注意深く様子を見てもよいです。
- ◎ 以下のような場合は、一刻も早く病院へ。
 - ・ 体表面積の10%以上のやけど（やけどした人の手のひら1つ分が約1%に相当）
 - ・ 水ぶくれがひどく強い痛みがある
 - ・ やけどした部分が白や黒に変色している
- ◎ 診察を受けるまでは、患部には何も塗らないこと。また、水ぶくれもつぶさないこと（感染や症状悪化の恐れがあるため）。

❄️ やけどの分類

1度	日焼けなどが原因。ひりひりと、ほてる感じがする。数日の治療期間が必要。
2度	やかんやなべの湯をかぶったりするとおこる。水ぶくれができ、10日前後の治療期間が必要。
3度	火災、爆発が原因。皮膚が白くなり、炭化。痛覚は消失。専門医の診察が必要。

❄️ 「低温やけど」に注意

カイロやホットカーペットなど、体温より少し高温なものが長時間皮膚に触れていると、いつの間にかやけどをしてしまいます。このようなやけどは、水で冷やしてもよくなりません。すぐに病院で診てもらいましょう。